【演題；20】 臨床研究

40歳未満の冠動脈インターベンション施行例の患者背景についての検討

社会保険 小倉記念病院 循環器科

渡部 宏俊、山地 杏平、兵頭 真、曽我 芳光、白井 伸一

安藤 献児、酒井 孝裕、近藤 克洋、岩淵 成志、横井 宏佳

野坂 秀行、延吉 正清

【背景・目的】2008 年 4 月より 40 歳以上に対するいわゆるメタボ健診が開始されたが 40 歳未満で虚血性心疾患を発症する患者も存在する。40 歳未満の冠動脈インターベンション（PCI）施行例の患者背景を調査した。

【方法】1995 年以降の当院での 40 歳未満の PCI 施行例（122 人，計 248 回，333 病変）を調査。33 人が川崎病，3 人がその他の先天的疾患であった。残る 86 人の各冠危険因子について調べた。また BMI 不明の 6 名を除き，BMI＞25 でありかつ高血圧，脂質異常症，糖尿病のうち少なくとも 2 つにあてはまる患者群をメタボリックシンドローム群（M＋群；34人）とし，そうでない群（M－群；46人）と分け，PCI 回数，治療病変数について比較した。

【結果】86 人の初回 PCI 施行年齢は 19～39（平均 34.4）歳であった。特に男性：78 人（90.7%），BMI＞ 25：49 人（57.0%），喫煙歴：69 人（80.2%），脂質異常症：55 人（64.4%）で割合が高かった。M+群と M−群の比較では，PCI 施行回数が平均 3.00 回 vs1.70 回（p=0.064）,病変数は平均 4.47vs2.26(p=0.051)であった。

【結論】40 歳未満で生活習慣病を背景 とする PCI 施行例では男性，肥満，喫煙，脂質異常症患者の割合が高かった。メタボ リックシンドロームの患者群の方が治療を繰り返す傾向にあると考えられる。